

2019年度

インターンシップ・プログラム
長期プロジェクトコース
プロジェクト報告書

京都府教育委員会

教員養成サポートセミナーを通しての学び

同志社女子大学 嵐 祐稀

1 実習校 宇治市立東宇治中学校

2 実習内容

- (1) 指導教員の先生の担当クラスに入り、朝学活や清掃といった学級活動に参加しました。また、掲示物作成等クラス運営にも携わりました。
- (2) 音楽科の授業にて、授業補助を行いました。授業内だけでなく、提出物の確認や配布物の作成等にも携わりました。
- (3) 体育大会の当日、準備・片付けや合唱コンクールの練習など行事に携わりました。

3 実習を終えて

教師は「教える」ばかりだと思っていました。しかし実際は、生徒たちに助けられることがとても多いな、と感じた日々でした。授業補助を行っている際、どう伝えたらよいか困っていると、生徒から「音程が分からないから、キーボードで教えてほしい」と伝えてくれ、私自身大変助かりました。これは、教師になっても周りの先生方や生徒たちから沢山のことを学ぶことができる大切さを忘れてはいけないということだと思いました。

大学の模擬授業とは異なり、実際に授業を受けている生徒は、初めて知ることばかりのため、いかに分かりやすく、かつ丁寧に伝えられるかが重要だと実習を通して感じました。自分が生徒であった時どのように知識を習得していったかを考えつつ、生徒の立場に立った分かりやすい教え方をさらに研究したいと思いました。

また、生徒の提出物も言葉と同じくらい、生徒一人一人の気持ちや理解度を知る大切なものと勉強になりました。授業だけでなく、学校生活を送る上で一番大切なのは生徒理解だと思います。そのためには色々なツールを利用し、少しでも多く生徒と関わりコミュニケーションを図ることが大事ではないかと思いました。実際に行われている学級活動や特別活動などを目にし、改めて全ての主役は生徒であり、教師が一方向的に作るものではないのだと実感しました。より良い授業や学校行事、学校を作っていくには、何よりも生徒をきちんと観察し実態を理解することが大事だと思いました。

個人テーマにも挙げた生徒と教師の距離感を学ぶことは、とても大切であり、常に教師としての自覚を持たなければならないと感じました。これは大学で学んでいるだけでは、決して感じることでできない感覚です。教師は、全ての言動が子どもたちの手本となるということ、先生方と生徒たちの関わりから実感しました。今回お世話になった指導教員の先生はいつも明るく、笑顔で生徒たちと関わっておられ、その姿から教師に元気があると、生徒も元気になっていると感じました。教師は生徒たちの心に自然と大きな影響を与えているのだと痛感しました。私も生徒たちと心を開きあった、安心感をもてるような教師になりたいと思いました。

半年間でしたが、部活動や行事を乗り越える度に生徒の成長を感じ、日々近くで支えることのできる教師という仕事は本当に素晴らしい、と強く思いました。更に、実習の期間には、教師になりたいという気持ちを強めてくれる嬉しいことが多々ありました。このような経験が出来たのも、実際に現場に出て活動する中で、担当教員の先生や指導教員の先生、生徒たちに助けられ、学び、自分の成長に繋がるような実習を行うことができたからだと考えます。今回の実習で学んだことを糧にさらに勉学に励み、再来年には私自身が教壇に立ち、生徒たちと一緒に成長したいです。

教員養成サポートセミナーを終えて

大谷大学 石川邦彦

1 実習校 向日市立向陽小学校

2 実習内容

(1) 授業

ア 授業補助

配属された学級で児童の質問に答えることや、学習のサポート、宿題や授業内での机間指導などを行った。

イ 授業観察

1学期は各学年の学級に入り、2学期は4年生の学級に固定で入り、教師の授業の進め方や児童の授業中の様子を観察した。

ウ 補充学習

夏休み期間の2日間低学年の2年生の児童数人を担当し学習のサポートを行った。

(2) 朝学活・終学活

児童に1日の流れを伝えて見通しを持たせた。良かったことや改善点を児童に伝えた。

(3) 職員作業・職員会議・校内研修

児童と直接関わらない職務を経験し、教師の仕事を幅広く知ることができた。

(4) 朝の挨拶運動

学校の前に立ち、児童と挨拶をすることを経験した。挨拶をすることだけが目的ではなく児童の様子を確認することや、児童が安全に登校できるようにという目的があったと感じた。

(5) 給食・掃除・休み時間

児童と接する中で、授業では見られない児童の姿を見ることができ、児童に対する距離感や関わり方を知ることができた。

3 実習を終えて

私は京都府の小学校教員を志望している。大学では学べない実際の教育現場の様子や仕事内容、また児童との関わり方などが経験できると思い教員養成サポートセミナーを受講することにした。

私が実習校に行くにあたり目標に掲げたことが2つある。1つ目は、児童の主体性を引き出す教育とはどんな教育か知ること。2つ目は、児童に対する距離感について知ることである。その中で私が学んだことを述べていきたいと思う。

1つ目の児童の主体性を引き出す教育について学んだことは、教師は1日を通して児童の様子や行動を観察し、良い点は全員の前で褒める、改善点は解決するために全員での話し合いが大切だということである。また、授業の場面では、教師が話し続けるのではなく児童同士で話し合う活動や発表しあう活動を多く取り入れることで児童が主体的に学ぼうとする気持ちが芽生えるのだということにも気付くことができた。

2つ目の児童に対する距離感については、何か答えが1つあるのだと以前は考えていた。

しかし、実習が進むにつれて児童1人1人に柔軟に、そして臨機応変な対応が大切だということがわかってきた。

演習での学びや経験を生かして今後更に努力して成長していこうと思う。

教員養成サポートセミナーを通しての学び

京都女子大学 重乃優実

1 実習校 宇治市立菟道小学校

2 実習内容

(1) 朝の挨拶運動

午前7時50分より、正門の前で登校してくる児童に挨拶をした。毎朝、一人一人の顔を見て挨拶をすることで、児童の体調の変化などに気付くことができる、児童と教師にとって一つの大切なコミュニケーションの場となっていると感じた。

(2) 授業

ア 授業の補助として1学期は1・4年生のクラスに、2学期からは3年生のクラスに入り、宿題プリントや授業中に課題の点検、机間指導などを行った。点検をすることで、児童の理解度を知ることができ、机間指導に生かすことができた。

イ 様々なクラスの授業を参観させていただいた。指導される先生によって、授業の進め方や学級の雰囲気は異なっていたが、どの先生の指導にも共通していたのは児童の興味・関心を高める発問や話し方をされていたことで、今後私が、教育実習などで実践を重ね磨くべきところであると感じた。

ウ 実地授業では、3年生のクラスで国語科「へんとつくり」の授業をした。事前に実習指導案や板書の仕方、教具について指導教員の先生に指導していただきながら準備を進め、授業後は担任の先生を含めた3人で授業の振り返りを行った。

(3) 運動会の準備・補助

児童の立ち位置を分かりやすくしたり、競技の線を引きやすくしたりするため、グラウンドにポイント打ちを行った。当日は、各競技で使用する道具の準備、片付けを行った。雨が心配されていたため急な変更が多く、すぐに対応できるよう、視野を広げることが大切であると学んだ。

3 実習を終えて

これまでの私は、登校から下校までを児童と過ごした経験がなかったこともあり、具体的な児童の実態が把握できなかった。そのため「先生」としてどうあるべきかが分からず、消極的であったと感じている。今回の実習では、児童と関わる時間が長かったことで、児童に対する理解が深まっただけでなく、自己の理解も深まったと考える。それによって、常に広い視野をもつことや、自分からより児童に関わろうとすること、また、学校生活の中で起こる問題から目をそらさないことなど、自身の改善すべき点を発見できたことが大きな学びであると感じる。

そのほか、学級運営やクラスの環境づくりの大切さを学んだ。タイマーを有効的に使うことや、問題が発生した際に児童の話に耳を傾け、経緯を順序立てて整理し、児童が納得できるまで話し合うことなどが、良い学級運営に繋がると感じた。

実習を終え、教師になりたいという思いはより強くなった。この経験が少しの自信につながったのと同時に、教師を目指す上で大切なことは、様々な経験を通して人間性を磨くことであると感じた。これからも実践的な活動を通して学び続けたい。